

横山機工が水素関連事業



横山機工と子会社の三陽アキキュラシーの水素関連事業の勉強会（大阪市福島区）の横山機工本社

子会社・三陽アキキュラシーと共同

横山機工（大阪市福島区）も進めていく。9月島区、横山利治社長）29日10月1日に東京では、子会社の三陽アキキュラシー（同）と共同で、脱炭素社会に向け、需要拡大が期待される水素関連事業の検討に入った。両社で勉強会「プロジェクト」と称し、を立ち上げており、水素事業への関わりを探る外部コンサルタントのモノづくり力を生かすため、月1回ペースとした関連部品の試作など始まった。横山機工と三陽アキキュラシーから現場責任者ら8人強で構成。水素関連事業の情報収集を

勉強会立ち上げ／展示会で加工技術発信

しつづ、バルブ関連や水素発生装置など想定される部品・装置の試作も随時行っていく方針だ。機械工具商社の横山機工は2014年にM&A（合併・買収）により三陽アキキュラシーを立ち上げ、部品加工業に参入。9台ある工作機械や3次元測定機など設備を充実させ、現在は半導体製造装置やロボット関連などの部品試作・加工でフル操業状態という。2社を合わせた2021年4月期の売上高は22億5000万円。2社の社長を兼務する横山氏は「水素関連事業は加工業の出番がある」と思っており、エネルギー分野に本格参入したい」とする。

西日本

ヤンパス光創起イノベーション研究拠点棟内にX線を検出するセンサーの製造ラインを立

生産する。投資額は研究開発なども含めて約8億2000万円。同社のセンサーはテ

握でき、産業用の非破壊検査などの効率アップにつながる。照射時間が短い被爆リスク

約8億2000万円

の投資のうち、商工中金に2億6000万円、浜松いわた信用金

用土鍋を電磁誘導加熱（IH）調理器で使うための設置型加熱器「IH炭かまど」を開発した。IHの上に置くだけで直火用土鍋が簡単に使える。かまど炊きのように土鍋全体を包み込むように加熱するため、土鍋本来のよさを最大限に引き出せる。

底面の直径が18センチ以内の鍋に対応したタイプのほか、同15センチ以内、同21センチ以内の3種類がある。価格は売れ筋の同18センチ以内のタイプが消費税込み1万1000円。食品や雑貨のライフスタイルショップ「AKOMEYA TOKYO」で今夏に店頭先行販売

オーシン

IHで使える 直火用土鍋

売したが、オンラインショップでの通信販売も始めた。一般家庭をメインに3種類合わせて初年度1500種の販売を目指す。

耐熱陶器製でリング状の本体と炭板、断熱マット、断熱マイカで構成。炭板はIHで発熱し底面からの伝

導熱、周囲からの対流熱、本体からの放射熱の3つを加熱する。かまど炊きのようにふくらとツヤの

る米を炊ける。土鍋の

直火対応の耐熱陶器や鉄物、ステンレス製の製品も使える。（東大阪）

設置型加熱器を開発

7月の近畿鋳工業生産 2カ月ぶり低下

近畿経済産業局がまとめた7月の近畿地域鋳工業生産動向（速報）は、2015年1100は、生産と出荷が続ける」とし2月以来

2カ月ぶりに低下し、在庫と在庫率は2カ月ぶりに上昇した。基調は「生産は回復を」とし2月以来

の判断を据え置いた。低下に寄与した。生産は前月比1.1%減の98.9、出荷が同3.4%減の96.3。いずれもリチウムイオン蓄電池、自動立体倉庫装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置などの品目が

在庫は同3.8%の96.4で、セパレート形エアコン、ポリロピレン、リチウムイオン蓄電池などが上

に寄与した。在庫率は同7.2%増の108.8だった。